

社会医療法人 緑泉会 米盛病院



入院患者用のベッドサイド情報端末システム、電子カルテシステム、診療受付・順番表示用のインフォメーションディスプレイ—これらすべてにHP シンククライアントを採用した米盛病院。壊れにくくセキュアなHP シンククライアントが運用を簡素化し、様々な用途で活躍している。

目的

- ベッドサイド情報端末システム:
入院患者のアメニティー充実による満足度向上
- 電子カルテシステム仮想化:
ハードウェアとアプリケーションの分離による運用の簡素化
- インフォメーションディスプレイ:
外来患者の待ち時間短縮やWeb予約などの利便性向上

アプローチ

- ベッドサイド情報端末システムである株式会社ヴァイタスの「スマイルポケット」をHP シンククライアント上で稼働、287台導入
- 電子カルテシステムをVMware View環境に移行し、HP シンククライアントからアクセス、約800台導入
- インフォメーションディスプレイのコントローラ端末としてHP シンククライアントを採用

導入の効果

- 入院患者、外来患者の空き時間の有効活用と満足度向上
- セキュリティ向上と運用管理の簡素化
- アプリケーションライフサイクルに依存しない、ハードウェアリプレースが可能に



社会医療法人 緑泉会 米盛病院
看護部長
菊地 雅文氏



社会医療法人 緑泉会 米盛病院
システム課長
福永 智一氏

鹿児島県鹿児島市にある米盛病院。整形外科の単科病院開院から46年の歴史を持つ病院だ。現在は整形外科に加え、救急科も併設。桜島を臨む病院の屋上のヘリポートには鹿児島県と補完提携をしている民間医療ヘリが発着する他、ドクターカーやドクターバイクも配備し、地域の救急医療を支えている。公的な医療施設が少ない鹿児島県において、地域の医療活動に貢献することを目標の一つとしている米盛病院のITインフラを支えているのがHPのコンピューターだ。今回米盛病院が導入したのは入院患者用のベッドサイド情報端末システム、電子カルテシステム、外来患者の診療受付・順番表示用のインフォメーションディスプレイ。これらすべての用途でHP シンククライアントが活躍している。

世界水準の医療で 地域の人々の健康に貢献

鹿児島県鹿児島市、桜島を臨む屋上のヘリポートに最新の民間医療ヘリを備える米盛病院。救急科と整形外科、ふたつの高度な専門科を統合した新しい医療を実現している本病院は、地域の医療活動に貢献することを目標の一つに掲げ、地域の人々の健康を日々支えている。救急科では、初期治療から緊急手術までに必要な様々な検査・医療機器を集約した救急室であるハイブリッドERを実現。患者の負担を軽くし、1秒の時間も無駄にしない設計がされており、世界でもほとんど類を見ない、最高水準の医療を提供している。整形外科も、局所ごとの専門医の連携、手術と検査を同時進行できるハイブリッドORの導入、さらに充実したリハビリテーション施設を提供し、あらゆるケースに対して最適な処置・治療を実現している。米盛病院では最高の医療・サービスを提供するため、IT化を効果的に取り入れ、業務効率化やコスト削減などを実現している。今回、現場からの声を元に米盛病院が着手したのは、入院患者用のベッドサイド情報端末システムの導入と、電子カルテシステムの仮想化・シンククライアント化、および外来患者の診療受付・順番表示用のインフォメーションディスプレイの導入だ。

長期間に渡る入院生活を 豊かなものに

米盛病院はベッド数305床。常に多くの入院患者が病院内で生活をしている。救急科など、一刻

を争う診療科とは異なり、整形外科はゆっくり、じっくりと患者と向き合いながら、長い時間を掛けて治療・リハビリをおこなう特徴がある。患者にとって病院で過ごす時間は非常に長いものであり、空き時間を豊かなものにすることで、快適な入院生活の実現や満足度向上につながる。米盛病院では、株式会社ヴァイタスのベッドサイド情報端末システム「スマイルポケット」を導入。入院患者は空き時間を利用し、病院の情報や入院中の案内情報、インターネット閲覧など、必要な情報へアクセスすることができる。このベッドサイド情報端末システムが、ディスクレス・ファンレスのシンククライアントで動いているとは、誰も想像しないだろう。端末内にデータを残さないため、入院患者の入れ替わり時に履歴などの情報が共有されることがない。セキュアで患者同士のプライバシーを保てるが、運用は再起動のみと非常に簡素化されている。また、壊れにくく音が静かな点も、病室に最適な仕様と言える。空き時間を有効活用でき、入院患者からの評価も非常に高いという。

また、従来は診療スケジュールを看護師が紙に記載して患者のベッドに貼るという運用をしていた。細心の注意を払っても、どうしても記載ミスなどヒューマンエラーが発生する可能性がある。電子化することでヒューマンエラーの防止が実現し、より安全・安心な医療を提供できるようになった。また、電子化によって看護師の手が空いた時間を有効活用できる点も大きな効果、と菊地氏は言う。

併せて、日々変わる入院患者の状態をベッドサイドで一目で確認することができる医療看護支援ピクトグラムを導入している。電子カルテと連携



することにより、入力の手間が省けて看護師間の情報共有が容易になった。そのため、ナースコール対応等、担当外の入院患者に対しても適切な看護ができるようになった。

電子カルテシステムの管理をシンプルに

米盛病院では、電子カルテシステムは以前から導入済みであったが、管理・メンテナンス面で問題を抱えていた。アプリケーションを端末にインストールしているため、ハードウェアの入れ替えや管理がアプリケーションのライフサイクルや仕様に依存してしまい、思うように入れ替えができなかった。パフォーマンス不足やサポート切れなどが発生しても容易にハードウェアの入れ替えができず、生産性が悪い状態であった。

この解決策として、電子カルテシステムの仮想化を検討し始めたのが約2年前。仮想化基盤にはVMware Viewを採用。従業員はシンクライアントからネットワーク越しに、VMware View上の電子カルテシステムにアクセスする環境へと移行した。仮想化することでハードウェアとアプリケーションが分離したため、それぞれのライフサイクルや仕様に依存しないシステムとなった。運用もシンプルになり、情報システム課の管理工数削減が実現している。従業員も通常のPCと変わらないパフォーマンスに満足しているようだ。また、端末にシンクライアントを採用したことでセキュリティ向上や消費電力削減などの効果も実感しているという。



HP t520 Thin Client

外来患者の利便性を向上

また、米盛病院では外来患者用のインフォメーションディスプレイを導入している。診療受付、診療順番の表示、Web予約なども可能となるシステムだ。さらに、来院患者数や待ち時間など、様々な統計データを取得することで、業務の見直し・改善に役立てることもできる。外来患者の利便性向上や医療サービス向上を実現している本システムにも、HP シンクライアントが採用されている。静音性が高く排熱も少ない点から、コントローラー端末として最適と判断された。

さらなる医療サービス向上へのチャレンジ

業務効率向上、患者サービス向上のため、ITを有効活用している米盛病院が今後の課題として挙げたのが、「訪問介護・看護のIT化」と「情報共有」だ。現在は医療一介護間の情報共有は思うような形で実現されておらず、基本的な情報の共有と紙によるやり取りとなっている。

今後さらに高齢化が進む日本において、訪問介護・看護のニーズは増え続けると予想される。この分野における情報連携や医療サービス向上、管理負荷を増大させない仕組みの導入が、今後の重要な課題となる。

患者一人一人に合った医療・サービスを追求し続ける米盛病院のチャレンジを、HPIは今後も支え続けていく。



社会医療法人 緑泉会 米盛病院

所在地

鹿児島県鹿児島市与次郎1丁目7番1号

開設

平成26年9月(改称前の米盛整形外科医院の開設は昭和44年)

診療科

整形外科、救急科、外科、脳神経外科、循環器内科、呼吸器内科、放射線科、リハビリテーション科、リウマチ科、麻酔科

病床数

305床

関連施設

整形外科 米盛草牟田クリニック、整形外科 米盛中央駅クリニック、リハビリテーション病院 米盛、まろにえ介護老人保健施設、マロニエ訪問看護ステーション「護国」、米盛病院 居宅介護支援事業所

お問い合わせはカスタマー・インフォメーションセンターへ

03-5749-8343 月～金 9:00～19:00 土 10:00～17:00(日、祝祭日、年末年始および5/1を除く)

HPのシンクライアント製品に関する情報は <http://www.hp.com/jp/thinclient>

本ページに記載されている情報は取材時におけるものであり、閲覧される時点で変更されている可能性があります。予めご了承ください。

本書に含まれる技術情報は、予告なく変更されることがあります。

記載されている会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

記載事項は2016年2月現在のものです。

© Copyright 2016 HP Development Company, L.P.

株式会社 日本HP

〒136-8711 東京都江東区大島2-2-1

